

## 令和3年度 第1回 電子工学科 学校関係者評価委員会

### 【出席者】

学校関係者評価委員 (敬称略 順不同)

大音 和豊          モノプラス株式会社 委員長

小森 望充          国立大学法人九州工業大学

佐々木 啓          久米電気株式会社

吉田 剛            株式会社ベルチャイルド

本学教職員

木村 誠            学校長

松本 哲也          総務課班長

上田 良和          教務ユニット班長

河村雅章          電子工学科主任 電子工学科2年生担任

中本 智            就職課主任 電子工学科1年生担任

【日時】 令和3年7月31日 13時00分～14時00分

【場所】 大阪電子専門学校 3階 コワーキングスペース

### 【議案】

1. 委員長の任期について
2. 学生アンケート案に関する意見聴取

### 【議事録】

#### 1. 委員長の任期について

これまで委員長の任期を明示していなかったため、委員任期と同じ2年を提案し承認された。

#### 2. 学生アンケート案に関する意見聴取

・委員の意見では、アンケートにおいて学習時間に関する質問よりも、学修の指針を学生へ示すことが重要であり、自宅学習や復習の習慣付けを日頃から指導、推奨した

上でアンケートを実施していくべきである。アンケートの結果によって、学校としての指針のフィードバックを受けやすいように修正していき、次回フィードバックを受けられるか評価したいと考えている。また学生指導の特記事項に、校内設備や不足している物や欲しい物など書けるようにしたら良い。

- ・就職活動について、学校は担任と就職課の両方で対応をしている。1年生の終わりから、業種、条件や志望企業を考えさせ始めている。学校の指針として1年生から就職に意識を向け、求人票が増える2年生の4月ごろから本格的に動き出している。

- ・学校は学生の企業内定後の対応について、内定を頂いた学生は必ずその企業へ行かせる指導を行っている。理由は就職先となる企業規模が大学と比べて小さいこともあり、企業側の採用計画から、就職先として学生数を確保して頂いているので信頼関係を重視している。

- ・委員の意見として大学では普段推薦を出して学生を決めているため、内定があればその会社へ行くという指導は行っていない。内定辞退も半数あることが実際の状況で、1社に決めず幅広く考えてよい。内定辞退を出した学校への求人が来なくなることはないが、もちろん学校と企業との関係もある。しかし最終的には辞めてしまうリスクを考えると、推薦があっても内定辞退が起きることはあり得る。

- ・学校の就職指導では、学生の希望により面接練習を行っている。面接練習をせず平気な学生もいるので、「就職指導でこういうことをしてほしい。」などをアンケートに特記事項で書かせるよう指導を行っている。

- ・現在、学校では、学生と企業の触れ合う機会を増やす工夫を行っている。現1年生ではインターンシップを推進し、夏休みを中心にインターンシップに参加するよう指導している。本年度もコロナ禍であったがオンラインで企業による説明会を実施して頂いている。

- ・委員の意見より、留学生の就職について業務上の都合により会社で外国人の雇用ができない場合や電気設備科においても同じ法令で雇えないため、業務ごとで雇用が制限される。新卒採用の経験はないが、中途採用で10年以上日本滞在のSEは雇用している例もある。

- ・学校の就職指導として、長所短所などの質問は採用にどう役立てているのか、質問の内容を生かしているのか、回答内容がどう採用基準に影響しているのかをふまえて面接指導を行っている。筆記試験は模擬試験で対応をしている。

・委員の意見より、定番の質問で「学生時代で一番力を入れたか事は何か。」というものがあるが、この質問で学生が受け答えできるかの確認をしている。面接では答えを覚えているような回答が多い。また予想外の質問をし、齟齬のない回答ができるのかコミュニケーション能力を見ている。

・学校の就職指導では、学生に想定質問に対する答えを用意させているのは事実であり、聞かれたことに対してどの様に答えるかを考えて自己分析を深めるよう指導している。社会人となり就職後も役に立つと考えている。